

萬代知新

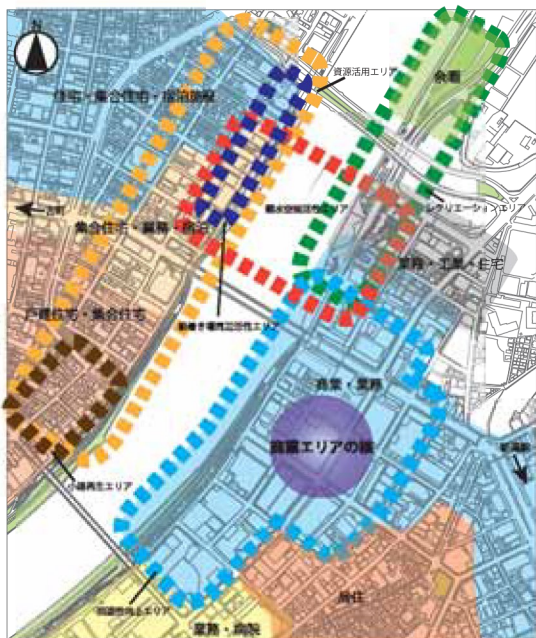
～故き新潟萬代の記憶を学び温め、新しい未来の萬代を知ること、まちと人は受け繋がれていく～

現在、萬代橋と周辺は開発の波に押し寄せられ次々と新しい建物が開発されている。しかし、その中にはあまり周辺との関係や環境を意識しないで建設されているものもある。また、萬代橋は日常的に市民に利用されているが多くは通勤などの通過交通としての利用であり、萬代橋を眺めることのできる河川空間を利用している人はあまりいない。現在の新潟は、都市の文脈に沿わない開発を進めることによって、故き萬代を忘れつつある。そこで新潟萬代（萬代橋・萬代エリア）の都市の記憶を遡り歴史を知る。そこから未来へ受け継ぐための新しい新潟萬代の提案を行う。

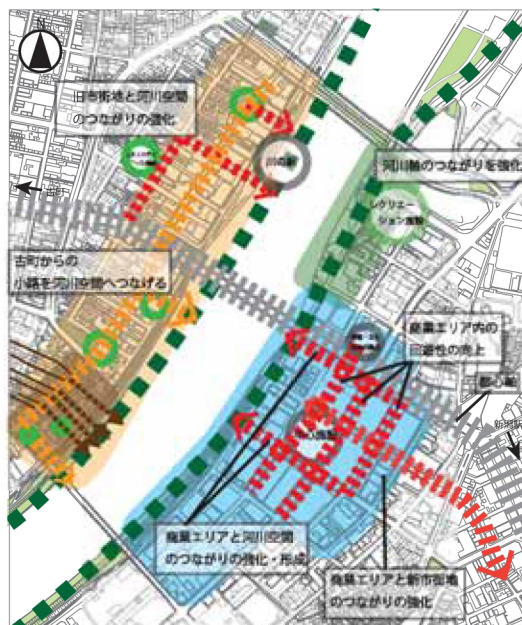
□コンセプト

現況の信濃川河川空間沿いを中心とした低未利用地による空間の断絶や地形の変化や無秩序な開発によってできた複数の特徴が重なる環境を有効活用し、萬代橋を意識させた街の提案を行う。そこで萬代橋周辺地区を4つのエリアの特徴に分け、「島」「古町」「賑わい」「余暇」といった、それぞれの特徴に合わせた資源のつながりを計画します。それぞれのつながりの計画とそれを実現させるプロジェクトが相互に影響しあうことによって、新旧市街地との調和やレクリエーション施設や住宅地等との河川との一体化により、新たな河川空間を軸とした街をつくります。

□現況土地利用と計画するエリアの役割



□つながり計画の方針



□萬代知新プロジェクト



□つながりの計画

商業地区のつながり

- 信濃川の存在を認知させ、二階レベルで建物と河川を結ぶ
- 既存の歩行者デッキの回遊性の強化を図る
- 新たな歩行者デッキの設置による河川空間へのアクセスの強化を図る
- 新市街地の賑わいを商業エリアにつなげる

河川敷のつながり

- 河川敷に賑わいと人を導く

古町へのつながり

- 新たな小路によって古町と信濃川を結ぶ
- ストックを活用し小路の個性を引き出す
- 住環境を配慮した土地利用を促します（開発可能地の話）

島のつながり

- 3本の通りに役割を持たせる

□景観計画

- 光環境計画の導入
- 色彩コントロールの導入